

# ヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の効果

## ～天敵と併用できる殺虫剤の探索に向けて～

2019年春に県内のイチゴで採集したヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の感受性検定を実施したところ、すべての個体群で効果が高かったのはスピノエース顆粒水和剤1剤のみでした。また、ベネビアODは、殺虫効果は低いものの食害を抑制する効果がありました。

### 1. 背景と目的

ヒラズハナアザミウマ(写真)は、イチゴの果実を食害し、商品価値を落とす重要害虫です。

現在、イチゴ栽培でのアザミウマ類の防除は、農薬散布により行われています。県内のイチゴ栽培では、ハダニ類防除のために天敵カブリダニ製剤の導入が増加しているため、天敵に影響の小さい農薬でアザミウマ類を防除する必要があります。



写真 ヒラズハナアザミウマ成虫(左)と被害果(右)

このような状況で、昨年、農薬散布をしてもアザミウマが減少しない事例が複数確認されたため、県内のイチゴ生産ほ場5ヶ所よりヒラズハナアザミウマを採集し、主な薬剤の効果調べましたので紹介します。

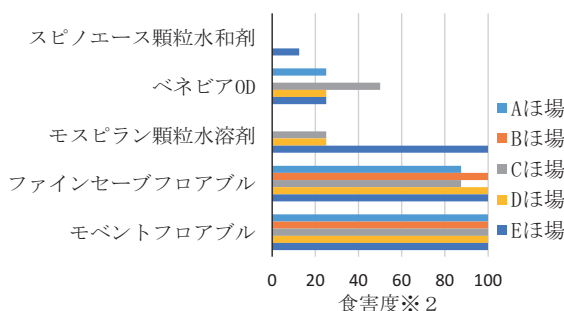
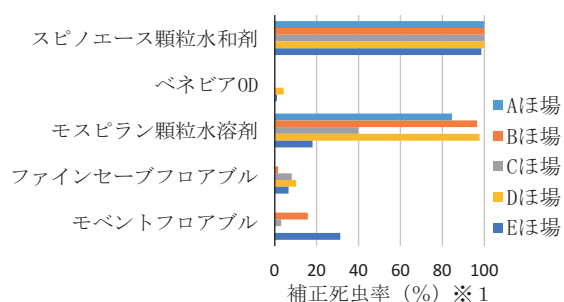
### 2. 研究成果の概要

アザミウマ類に登録があり、イチゴで使用される5種の殺虫剤の効果を、当所で開発した簡易検定法で調査しました。

その結果、スピノエース顆粒水和剤はすべての個体群で死亡率が高く、食害度も低いことから効果が高いと考えられました。また、ベネビアODは、死亡率は低いものの食害度が低いことから、食害を抑制できると考えられました。

このほか、モスピラン顆粒水溶剤はほ場ごとに死亡率と食害度に差があることから、一部の個体群で感受性が低下していると考えられま

す。ファインセーブフロアブルとモベントフロアブルは、死亡率が低く、食害度も高いためヒラズハナアザミウマの防除には不適であると考えられました。



※1 水道水処理の死亡率が0になるように補正した死亡率

※2 検定植物の食害程度を、水道水処理を100とした場合の値

図 ヒラズハナアザミウマに対する殺虫剤の効果(2019年)

### 3. 実用化に向けた対応

以上の結果より、ヒラズハナアザミウマに対して効果が安定している薬剤はスピノエース顆粒水和剤1剤のみでした。

今後は、化学農薬だけではなく、赤色ネットやシルバーマルチを用いた物理的防除や、アザミウマ類の天敵を用いた生物的防除法を組み合わせた害虫の防除体系を検討し、化学農薬の使用を減らしつつ、イチゴを害虫から守る方法を検討する必要があると思われます。

(環境科 山口 貴大)